

2年4組6班の活動報告です。石原利紗 岩田陽香 椿拳信 土岐壮史

◇ 研究テーマ「もっと身近なLGBT」

LGBTの方々が特別扱いされず、みんなに自然と受け入れられ、普通に生きていくことができる世界が実現できたら素敵だと思います。その世界を目指して、まず自分たちが知る、そして多くの人に認知してもらおうと思い、このテーマに取り組んできました。

【関連するSDGs (アイコン)】



◇ 実践したこと (フィールドワークなどで調べて分かったこと)

・令和3年度ダイバーシティ SEKI シンポジウム

LGBTをはじめとするマイノリティとの共生について講演を聞きました。

特に、早川工業株式会社代表からは、会社で行っている事例や考え方について伺いました。早川工業は「ごちゃまぜの人材がイノベーションを生む」という理念のもと、ダイバーシティ経営に魅力を感じた人が集まったことで、町工場には珍しく若者の多い職場となっています。障がい者雇用率13%以上を果たしているにも関わらず、「障がい者だから、という理由で採用しているわけではない。持ち味・個性であって、ひとりの人として見ている。」とおっしゃっていました。その根幹にグループ一同感銘を受け、その後の研究活動の基盤となりました。

◇ 提案

- ・知る機会を増やすために授業で扱う
- ・小さい子に知ってもらい、周りの大人に知ってもらう
- ・当事者との交流をする
- ・アライを増やす
 - *アライとは：LGBTに理解を示し、優しく受け入れる人のこと
「支援者」「同盟」「味方」を意味する

◇ 活動を通じて考えたこと

- ・この活動に取り組むときに初めてLGBTについて知りました。LGBTの人だったら、この言動はどう思うのだろうと考えるようになり、その後LGBTに関係なくいつも人の気持ちを考えるようになりました。また、LGBTの人たちを受け入れるためにはどういうことが大切なのだろうと考えることで、同じように、他の人や物事に対しても受け入れようと努力できるようになりました。LGBTについて考えることで、人のことを考えるようになりました。仲間と一緒にそのようなことを考えているときは心が温かかったです。そんな世界は素敵だと思います。
- ・多様性を認め合う社会づくりの一環として、具体的な活動を知るきっかけになりました。関市のように、取り組んでいるといっても、なかなかその内容までは今まで知らなかったし、早川

工業さんのように企業の実例に出会ったことで、目指している社会は実は何も特別ではないのかもしれないなと思いました。現状の課題は詰まるところ、無知と心無さだと思ったので、意識を少しずつ変えていくために根気よく活動することが鍵であると思いました。

- ・同じ人間でも価値観はひとそれぞれで、それを認め合わなければ苦しむ人がでてきてしまうことを知り、多様性を受け入れることの大切さを学びました。
- ・大切なのは知ることではなくて、多様性を受け入れること、一人一人を尊重することだと思いました。LGBT 当事者、当事者でない関係なく、お互いのことを一人の人間として認め合える世界になってほしいと思いました。